

岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 第1回農林高校部会（会議録概要）

日時：令和2年8月26日（水）13：30～

場所：木島平村若者センター 1階 研修室

1 開 会

2 自己紹介

3 協議会設置（経過・要綱）について

事務局が説明

4 あいさつ

部会長 日 梶木島平村長

副部会長 宮川栄村長代理 桑原副村長

5 議 事

（1）説明

①下高井農林高校の現状について

下高井農林高校 久根校長より説明

②長野県の県立高校の現状について

長野県教育委員会 高校教育課 高校再編推進室 上原主任指導主事より説明

（2）意見交換

日 梶部会長

農林高校にどんな事を期待し、どんな事ができるのかそれぞれご意見をお願いします。

飯水岳北建設労働組合 真篠組合長

先ほど校長先生からも説明ありましたが、農場要覧の7ページの資格取得というところで今現在も下高井農林高校では、いろんな資格制度、玉掛講習、あるいはフォークリフトの運転技能講習、高所作業車、クレーンの運転、それぞれ書いてあります。これについては非常にありがたいです。

というのは、学校で資格を取るという、一般で社会へ出てから取るのは大変になります。

学校の中でこういう資格を取ってもらうと即戦力となりますので、こういうことをもっと

やってもらえれば非常にありがたいと思っております。

それと今、農林高校生がいろんなことに挑戦していて、この間も新聞に出ていたが、馬曲温泉の水車を造る、そういうところに興味を持っている生徒がいっぱいいるので、特徴のある教育ができると思っています。

日墓部会長

今、下高井農林高校では資格制度に力を入れるということで、これについては外部の皆さんが指導をして資格をとっているということであります。

この辺について校長先生の方から、これからどんな資格を取れるとか、この辺について話していただければと思いますが。

下高井農林高校 久根校長

緑の冊子の後ろの方の7ページの農場要覧になります。農業機械の資格からありますが、なかなかそんなに多くはないかなと思います。

飯田の方にあります、中部労働技能教習センターのそちらのかたに2泊3日とか3泊4日来ていただく中で、就職してしまうと、それを会社をあけて取るというのは厳しい中で、一般の方に引き受けていただくこともあるようですが、就職を見据えて希望者になりますが、今週もフォークリフトがありました。夏休み中も玉掛をしてもらって、クレーン等も、今日も除雪機の、これは資格取得の講習ではありませんが、体験ということで、午後希望のコースの生徒ですが、資格取得にはお金がかかりますが少しでも経験をさせたいということで、資格取得振興会というものがありまして、地域の方が機械を貸していただいて経験を積ませていただいて、これについては今後も考えていくつもりであります。

日墓部会長

資格取得については、振興組合とかあるようですが、伊東さんどうですかね。

飯山商工会議所 伊東会頭

いま建設業の業界では、技術者不足で公共工事がたくさん災害等でできておりますが、不調に終わります。なぜかという技術者不足ということで、結局、一現場に一名の技術者をつけなくてはいけないというようなことで、不調というような状況が続いております。

というような状況の中で、職業校におおいに期待をしているというのが建設業界の状況で、募集の中でいままでの就職先を見ますと、建設業者が名前を連ねているという状況になっていますが、資格取得はもちろんです。担えるような若者が来てもらえるといいかなあと思いますが、いずれにしても岳北地域に2校しかありませんので、職業校県下5か所という中で北信には職業校を残すよう取り組んでいければと、ただし子供たちが主体でございまして、学びが優先されますので、その辺を忘れないようにしながら地域活性がはかれればと思います。

日墓部会長

資格取得した後、どこか実践できるという場面が高校にはあるんですかね。

下高井農林高校 久根校長

実際に高校時代に活用するというのはいませんが、機械そのものを扱うということは確かにできますが、卒業するにあたって就職を意識して扱っていますので、今の状況でありますと科を選ぶ2年時のときには、そういった方面に進むことを考えているという子が実際に多くいます。

日墓部会長

建設関係もそうですが、米農家も多くいまして、資格云々というか、そういったところへ高校生が行っていろいろ実践してみて、最近の機械は大型になっていますし、機能もかなり上がってる状況ですので、そういったところで体験することは大切です。その辺について、そういった受け入れについて、場面をつくりたいなというようなお考えはないでしょうか。野沢農産の高橋さんいかがでしょうか。

野沢農産生産組合 高橋組合長

伊東建設さんと同じで、オペレーターが非常に大変でございます。先般、農林高校へ来て何を教えてくれるのかと言うのが一番重要じゃないかなと。いま免許を取るのもいいんですが、まず私が思っているのは、夢を持つということが一番大切じゃないかなと思うんです。

例えば、小諸にトップリバーという会社があります。年商13億になる野菜農家ですが、そこは研修制度をとっています。研修した人たちが必死になって野菜づくりを習って帰って、自分の家で野菜農家になるんだそうです。

自分でそういうふうやって野菜農家で儲けてやろうと。やはり、こうなったらこのくらい収入が上がるというような夢をもたせないと動かないんじゃないかなと思います。農家で普通のサラリーマンと同じ給料じゃやる人いませんよ。勤めた方が楽ですから。ですから給料で1,000万程度取れるようにならないと、とてもじゃないけど農家の後継ぎ、そういうふうには多分ならないと思います。

まずそれをやってから例えば、クラブかなんかでもっと充実させていく、または農業のインターンシップ。地域にはでかい農家で先進的な農家があります。そういうところへ行って研修を受けるのもひとつの方法じゃないかなと。それからやっぱり目的がないと、ただ行ってきました何をやるのか分からない。自分が将来儲けてやろうっていう気構えがない人が行っても意味がないので、そこが一番大事ですね。だから一番初めに何をやりたいのかを生徒に聞いたほうがいいと思います。

あと、うちのほうで重点にしているのが販売です。農業では、一番大事になってきています。自分で作った農産物を自分で販売できないというのが一番悪いところで、農業経営

も考えたりして、将来どういうふうになりたいのかという生徒が夢を持つような方向にしないと、だれも入ってこなくなると思います。

日墓部会長

ぜひ、将来の夢を与えてもらえればと思います。

それから販売の方も大事かと思います。前からずっと言っていますが、県立高校の場合は品物を作って生産して売っても売上のうちの98%が県に吸い上げられてしまうという、前々から改善をお願いしているのですが、やはり、高橋さんが言われたように、自分で作ったものを売って評価してもらおう。どういうふうに評価されたかが自分の励みになると思います。

県が所有している施設、機械を使って生産したのだからそれは県のものだと言われましたが、経営を学ぶということになれば次の世代に受け継がれていく、自分たちで稼いだもので自分たちで機械を揃えていく、自分たちで種や苗を揃えていく、そして販売して次へと受け継がれていくというのはメリットになると思います。その辺については、これからも要望していきたいと思います。

資格取得については、いま農業用の部分が少ないかなと資料を見て思います。実際問題からすると、この地域では水稻の部分で頑張っている大規模な農家が多いので、そういうところも加えてほしいなと思っています。

高校生を加えて体験してもらいながら誘導してもらおうと、苦しいんじゃなくて楽しいとか、夢持つようなそんなことをお願いしたいと思います。

北信州森林組合 滝沢利用事業室長

うちの方も、農林高校から来てくれる生徒はいませんでした。毎年林業大学から採用はされていますが、やめてしまう方も多いです。

いま学校をどうしようという時に、小学生、中学生に農林高校はこういう魅力があるんだというPRをしてもらったほうがいいと思います。色々な事をしているのはよくわかるのですが、中学生が農林高校へ行けばこういうことができる、こういうふうになってどういふふうになる、というようなことを見極めるというようなことを小学校、中学校は大事な事かなと思いますので、小さいときからもっと農林高校の魅力を見せたり、体験をさせてやればいいなと思います。

あとひとつ林業の関係ですが、伐採の音のチェーンソーがよかったというような人もいましたので、そんな体験もやらせてもらえればと思いました。

日墓部会長

農林高校では食品加工だとか、いろんな分野で活躍していますので、社会福祉と介護の現場で臨んでいることがあればお願いします。

特別養護老人ホーム里山の家 大日向施設長

うちのほうの施設でも、農林高校の生徒さん春と秋のキャリアウィークの実習を受け入れさせていただいて、毎年多くの生徒に来ていただいています。その中で介護の仕事について知らない生徒さんが結構いらっちゃって、実際職員と一緒にやっていく中で興味を持っていた生徒さんも何人かいらっちゃって、実際に福祉系の専門学校へ進んで資格をとって、うちの施設へ就職していただいた方、ここ何年かいます。介護職員も不足している中でありますので、福祉に興味をもってもらうことはありがたいです。

立志館高校に介護系の資格をとれる学科があるということで、農林高校でもそういった学科があればいいと思います。

子育て介護系の資格がとりたくて立志館高校へ行ったという生徒もいるとの事で、専門性というところから、見据えていければいいと思います。

日墓部会長

「里山の家」は、村では研修しながら介護の資格をとれるように作った施設ですが、下高井農林との活用を考えていきたいと思っています。

今日は、いろいろな方に来ていただいていますので、発言をお願いします。

農業振興公社 竹原事務局長

ちょっと前まで新規就農者の受け入れということで指導などやっていましたが、ここ最近はそういうことはないという中で、農林高校とは農村交流館のそば道場の関係でかかわっており、そば粉の提供もさせていただいています。また、そば打ち大会を目指してそば打ち研究会からコーチの派遣もさせていただいており、大会への随行などでも交流をしています。

就農体験の受け入れもしています。農業振興公社プロパー職員6人いますが、うち4人は農林高校の卒業生であります。

それから、しっかり高校の魅力を売り込むことは大事かと思います。

また資料を見ますと、進学先を農業関係に進んでいる生徒が少ないですね。一つの魅力としては技術を身につける、後々の就職のことを考えていると思いますので、農業大学とのつながりも必要だと考えます。

県教委から再編に関する基準で定数160人から120人するともう少し生き延びれるのかなと思いました。

日墓部会長

農林高校では、オープンキャンパスはどういうふうにやっていますか。

下高井農林高校 久根校長

オープンキャンパスは10月末に例年どおりやる予定です。

さらに小中学校と交流ということでは、すべて学校さんではないですけども・・・・・・ということになりますが、・・・・したい。生徒自身が・・・・について携わる場合と本校の生

徒にしてみると地域の中に、つたない指導になるんですけども、講師役として教わったことを還元していくということもやる中で生徒が育っていくと思います。

日墓部会長

地域とのつながりというものをできるだけ多く情報発信して、多くの皆さんに知ってもらえるのではないかと思います。

野球部員が足りなくて、そば班の子どもと一緒に大会へ出たというような話がありました。あれについては感動した人も多いのではないかと思います。逆にいえば小さい高校だからこそそういうことができるというふうに思います。

いまの時点では、なかなか難しいのですが、この協議会をできるだけ長く続けていきたいと、いろんな形で考えながら、そのために下高井農林高校の施設をみんなで見る必要があるかなと思いますが。

それから専攻科についても、富山県の事例が出ましたが、希望される方があれば視察に行ってみようかなあとそういうことも考えております。

いまままで取り組んでいる課題について中心に話しをしてきましたが、できればこれからどんなことをしていけばいいかというようなことを議論していければと思います。

今日は、同窓会の会長さんもいらっしゃいますので、同窓会としてもお話しいただければと思います。

同窓会 村松会長

私も卒業して50年、半世紀を過ぎています。当時と180度変わった状況になっています。学科の方も勿論ですし、内容も変わってきています。いまいろんなお話を出していただきましたが、卒業生も農林高校といいながら農業あるいは林業に就いているという人はそんなにはいない。逆に言うと、建設業だとか一般の仕事に就いている人が多いのかなという気持ちですが、農林高校という名前があるのなら、やはり農業、林業についてもっと学科の勉強を工夫していく必要があると思います。

生産から販売まで米だけ見てという形ですが、天候もそうですが、水がなくなったらどこから引いてくるのか、そういう林業、山も、それから農地も合わせた中でこういう環境のいいところにある高校なので、その合わせた学習方法も必要なのかなと私自身思っています。合わせてやらないとなかなかついて来ないということもあるのですが、やはり農業と農地と山と合わせたものを教えていただけたら、ありがたいなあとと思います。

それと先ほど、中学校の募集の時にこういうことを農林高校ではやっているの、ぜひみなさん来てくださいというようなものがひとつと、農林高校へ入学を考えたときに、親御さんの話もあると思います。農林高校より飯山高校いったほうがいいんじゃないかとか、中野の方へ行ったほうがいいんじゃないかとか、そういうようなことがかなりあると思います。

それを魅力あるというか、農林行けばこういうこと教えてくれたよ、将先輩がいるからそっちの方へ行けるよというような親御さんも、まだ中学生であると自分でどこ行くかな

かなか自分で決められない部分が多いと思いますので、下高井農林のPRは必要だと考えています。

下高井農林高校 久根校長

様々なご意見をいただきうれしく思っております。学校のほうからひとつ資料を用意させていただいております。カラーの資料、農林高校の魅力化、もうひとつは、職業高校、専門高校という言い方になっていますけども、地域の産業を担う専門校としてどういったことをしていかなければならないかということを議論してきております。

そういった中で、農と林というものを教えるところから、本校へ来ている生徒のニーズ、地域の方のニーズも含めて実際どういうふうにしていくか考えていく必要があります。

一方でやはり農林高校でありますので、農業の専門職員もおりますし、林業もおります。どういう教育で地域の産業を担う生徒を育成していくかという、こういうようなところが一番のメインの軸になるところかと思いますが、生徒の数が少なくなっている中で今、2学科8コースが、非常に細分化されていて、それに基づいた教育課程がありますので動きづらい部分や弊害がでてきております。

改めて昨年来考える中で、地域の方に支えていただきながら、一緒に考えていかないと、やはり学校の中だけでは、今現在も地域の方から色々なことを学んでいるわけですが、それをもう少し組織だった形にしていきたいというところです。先ほど販売の話もいただきましたが、一番これから必要になるというところで、作るのはいいいけど実際生活していくことになる、生産から販売するところまで一貫したものに、経営、管理の部分を実践できる知識、技術を習得すること、経営感覚を身につけると、それによって地域産業の発展と活性化に貢献できる人材を育成するということで、産業創造経営という一つの経営です。もうひとつは地域資源を活用した環境デザイン、保全、それから支援循環、地域の防災など。それと、小沼ほうきづくりをする生徒もおりますけれども、地域の伝統文化を継承するというようなことも意識しながら地域振興への貢献も身につける、こういう地域環境も創造する、環境創造経営する二つの大きな系列を考えて、それに基づいた教育課程をいま計画しています。

もう一枚のほうは、教育課程の中身になりますが二つの大きな柱、これはいまやっていること変えるというのは厳しいものはありますが、それをさらに進化させる。ひとつはキャリア教育、1年時と2年時に5日間行っていますが、さらにそれを通年、年間を通して、これは企業様や先進農家様によってまちまちだと思いますので、季節季節によってお断りされるかもしれませんが、もう少しその部分を深めるということで、いまは進路指導の一環としてキャリアウィークがありますが、授業としても考えていこうとしています。「デュアルシステム」という言い方になりますが、それが一つの大きな柱です。もうひとつは、これはもう進めています地域交流ということでコミュニティーを学ぶ、この2本柱を地域創造学科の柱に掲げて、実際には地域の方と一緒にあって、地域を支えていく生徒を育てていくようにしたいと。こういうことで今進めています。

戻りまして下から２段のところですね、まわりを支える地域のプラットフォームということで、具体的には農業科の授業の中で進める一方で、実際には先進的な機器を使ったり、林業のほうも高性能な機器を使ったり……。そういった意味ではそちらで……。させていただく。または講師になってお越しいただいて授業をしていただく、そうしたシステムを学校のほうでは、教育体制をこういうような機会ですので、ぜひ作っていただくことをこちらとしてはお願いしなければならないのですが、地域、保護者、PTAの総会、さらには飯山高校との連携も少し書いてありますけれども、そういった組織を地域の力としてできればというふうに考えております。

日臺部会長

校長先生も考えておられるので、その辺もぜひ一緒に考えていきたいと思います。

観光面から見た下高井農林の魅力どういうふうに考えていけばいいか、石田さんの方でお願いします。

信州いいやま観光局 石田常務理事

観光面から今の段階で提案は難しいかなと思いますので、いま生徒の確保と、別の観点からお話しさせていただいてよろしいですか。

先ほど来から出ている下高井農林への進学動機を持っていただくということは、非常に大切なことかなと思います。

高橋さんのお話しにもありましたとおり、将来どういうことをしたいのかというような話、生徒さんが未来予想図をより具体的に描けるような仕組みづくりというのが地域全体としての、地域として必要なことというふうに思います。

実際の中学生の段階で、色々と将来を創造するのは非常に難しいことですが、時間をかけながら卒業生が安定した生活を営めることができるという実態の中で出てくるわけです。自然と中学生を含め親御さんというような話もありましたけど、親御さんへの下高井農林への進学の訴求力も出てくるかなと思います。

意見にありましたとおり、例えば、高校あるいは大学との継続教育というものもどうかかなと思ひまして、大学の農学部への進学をしっかりと行政がサポートするというようなことは可能なのか。あるいは農家、あるいは企業への就職も含めて、行政なり地域がサポートしながら下高井農林の魅力を高めていくという努力が必要なのではないかと思います。

こうしたことが少し見えることによって行政の力をお借りしながら、それを見ることによって親御さんを含めて下高井農林の進路等、訴求力が出てくるのかなあとしますので、地域一体となった取り組みというのを魅力づくり研究会の中で研究していければと思います。

日臺部会長

ありがとうございました。

村では東京農業大学といろいろ交流しています。

今年はコロナの関係で途切れてしまいましたが、ぜひ下高井農林高校と東京農大、そのほかいろいろな学校との交流を、場面を作っていったらということを下高井農林高校の魅力にしていければと思っています。

県教委では、ここで話した議論した中身が実践できる、いろいろ財政面とか、人的な面とか、できるだけ柔軟に地域の情報をつないでいただいて、後押ししていただけることをぜひお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(3) 今後のスケジュールについて

- ・ 次回開催日程について 月 日 () 時～
事務局が、日程調節し後日通知をする旨を伝えた。

資料

- 【資料1】 岳北地域高校の魅力づくり研究協議会名簿（全体会・部会）
- 【資料2】 岳北地域高校の魅力づくり研究協議会設置要綱
- 【資料3】 岳北地域高校の魅力づくり研究協議会の進め方
- 【資料4、5】 参考記事（長野県民新聞）
- 【別冊】 「高校改革～夢に挑戦する学び～ 再編・整備計画【一次】案」